当上半期は、景気の先行き不透明感の中、減収、減益。 通期はグループの総力を結集し業績向上を目指す。

売上高

5千7百万円

(前年同期比-0.7%)

営業利益

3千万円 (前年同期比-33.6%) 親会社株主に帰属する 四半期純利益

8千6百万円

(前年同期比-67.1%)

1株当たり中間配当金

総資産

5 千 5 百万円

純資産 (自己資本比率)

4千5百万円

(68.3%)

1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元に努めます。 1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。 〈2020年3月期 期末配当予想〉1株当たり25円(年間配当は1株当たり40円)

2020年3月期 業績予想

売上高 …………1.465億円 (前年同期比-1.8%)

営業利益51億円 (前年同期比-14.2%)

地上波放送事業

551億**5**千**4**百万円

13億8千8百万円

(前年同期比-29.9%)

(前年同期比-1.7%)

放送収入のうち番組を提供するタイムCM収入は、ローカル部門で7月クールの ベースアップを計画通りに実施できなかったことに加え、「2018 FIFA ワールドカップ ロシア」の反動等で減収となりました。また、番組の間に流れるスポットCM収入も、 東京地区全体が低調だったことにより減収となりました。

ソフトライツ収入では、「サ道」など配信会社との連続ドラマや「孤独のグルメ」過 去作などの追加印税が好調でした。アニメ事業では、中国で「NARUTO」のゲームが 好調だったほか、「BORUTO」などの配信も堅調に推移しました。

放送周辺事業

■売上高

売上比率

210億**7**千**3**百万円

(前年同期比+3.6%)

■営業利益

13億4千7百万円

(前年同期比-10.7%)



通信販売関連では、オリジナルゴルフクラブが大きく売上を伸ばしたほか、生活用 品を中心とした通販事業の好調が続きました。 CS放送関連では、アニメ専門チャンネル「AT-X」の加入者数の減少傾向が続きま

したが、広告関連売上やライツ売上の増加でカバーし、増収となりました。

音楽出版関連は、「Re:ゼロから始める異世界生活」をはじめ、アニメ関連楽曲の 二次使用に伴う印税収入が想定を上回りました。

【連結子会社】(株)テレビ東京ミュージック/(株)テレビ東京メディアネット/(株)テレビ 東京コマーシャル/(株)テレビ東京アート/(株)テレビ東京システム/(株)テレビ東京制 作/(株)テレビ東京ダイレクト/(株)テレビ東京ヒューマン/(株)テクノマックス/(株)テ レビ東京ビジネスサービス/(株)エー・ティー・エックス/TV TOKYO AMERICA, INC.

コミュニケーション事業

【連結子会社】(株)テレビ東京

BS放送事業

82億1千万円

■営業利益

(前年同期比+2.8%)

5億4千8百万円 (前年同期比-8.7%)

売上比率 9.5%

1億1千4百万円 ■営業利益



(前年同期比-37.8%)

(前年同期比+4.9%)

20億5千9百万円

キャラクター関連のデジタル、EC、ライセンス売上が堅調に推移し、動画広告売上 が過去最高を記録したことで前年を上回りました。

その他、クロスメディア事業拡大に向けたベンチャー企業との資本業務提携の実 施等、事業開発にも積極的に取り組みました。

※「コミュニケーション事業」は、従来「インターネット・モバイル事業」として表示しておりましたが、 2018年度よりセグメント名称を変更しております。

【連結子会社】(株)テレビ東京コミュニケーションズ

放送収入では、スポット収入は市況全体が低調で振るいませんでしたが、タイム 収入がそれをカバーし、放送収入全体で前年同期を上回りました。 特番では、「プロ野球中継」での4試合の冠セールスが成立したことや「卓球T2ダイ

ヤモンド」「全米プロゴルフ選手権」「男子バスケットボール日本代表国際試合」と いった新規案件の実施など、スポーツコンテンツが売上に寄与しました。

その他、オリジナル番組の二次展開が堅調に推移したことにより、売上を伸ばしま した。

【連結子会社】(株) BSテレビ東京

15 テレビ東京グループ ステークホルダー通信 Winter 2019